

U-23女子田中が6位、ジュニア女子山本が12位 2007ITU世界選手権ハンブルク大会速報1

男子、ジュニアは樫の35位、U-23は長谷川の41位が最高位

8月31(金)、2007ITU世界選手権ハンブルク大会の第1日、ジュニアとU-23のレースが行われた。

午前8時30分スタートとのジュニア女子は、気温が12度と低く、天気は雨が降ったりやんだり。水温も17度で、ウエットスーツ着用で始まった。

スイムでは蔵本葵(東京ヴェルディ)が好位置で上がり、バイク1周回目までは第1集団のトップ付近に留まった。山本奈央(愛知県立西尾高校)と高橋侑子(東京ヴェルディ)も、バイク終了まで第1集団を走った。

ランでは、飛び出したホーリー・アヴィル(イギリス)がそのまま逃げて、59分43秒で優勝。蔵本はランで後退したが山本と高橋が健闘し、山本は12位に入った。高橋は15位、蔵本は28位だった。レース後山本は、「バイクの速さに驚いた。第1集団のいい位置が取れなくて、ランで遅れた。ランの最初のスピードが課題」と語った。

午前11時5分スタートのジュニア男子は、スイムで先行したフランスのオーレリアン・ラファエルを中心として5名がバイクで逃げた。この第1集団は周回ごとに後続に差を付け、ランに移ったときには、予定されていたようにラファエルが独走し、そのまま53分43秒で優勝した。

日本選手は、樫浩平(チームテイケイジュニア)がスイム・バイクで遅れながらもランで頑張り、34位に入った。

樫は、「バイクでぜんぜん前に出られなかった。ランでも脚がガクガクして走れなかった。練習し直して、来年挑戦したい」とコメントした。



山本は12位に入る健闘を見せた。後ろは高橋



バイクで前を追う樫

2007年度社団法人日本トライアスロン連合(JTU) オフィシャルスポンサー&オフィシャルパートナー



U-23女子田中が6位、ジュニア女子山本が12位

2007ITU世界選手権ハンブルク大会速報1

午後1時40分にスタートのU-23女子は、雨が強まるなか始まった。スイムをトップで上がったのは、オーニック(アメリカ)。そのままバイクでも一人で逃げ続け、ランへのトランジションに入ったときには第2集団に50秒の差を付けていた。

日本選手は、田中敬子(NTT東日本・NTT西日本・スカイタワー58))と太田麻衣子(千葉県連合)がトップを追う第2集団で頑張り、ランにつなげた。

ランでもオーニックが逃げ続けるが最終周でリサ・ノルデン(スウェーデン)に追いつかれた。その結果、ノルデンが2時間1分24秒で優勝した。

田中は、ランでよく前の選手を追い、3周目には表彰台に後一步まで追ったが、最終周で抜かれて6位となった。

田中は、「今年一番よいレース。スイムの遅れは痛かったがバイクで良く走れた。ランの出だしてトップにつけなかったことで表彰台をのがした」と悔しそうだった。

午後5時20分にスタートしたU-23男子は、スイムから混戦模様となった。

バイクでは、2周目には約40名の大集団となったが、5周目をすぎたところで、ヤン・バンベルケル(スイス)とヘルガ・メッチャード(ドイツ)の二人が抜け出した。

しかし、ランにはいるとグレゴール・ブックホルツ(ドイツ)とブレンダン・セクストン(オーストラリア)、イワン・バシリエフ(ロシア)がデッドヒートを続け、最後にブックホルツが1時間49分31秒で優勝した。

日本選手は、長谷川裕一(東京ヴェルディ)、小野友行(東京ヴェルディ)ともにバイクで第1集団で戦ったが、ランで後退して長谷川の41位が最高位となった。

長谷川は「U-23ではじめて第1集団で走れた。来年は優勝したい」と語った。

なお、これら4レースの様子は、フォトギャラリーでご覧になれます。



バイクで積極的前に入る田中。向かって左後ろは太田



スイムを上げて得意のバイクに出る長谷川

2007年度社団法人日本トライアスロン連合(JTU) オフィシャルスポンサー&オフィシャルパートナー

